

## 目的別マニュアル

# [ プレゼン編 ]



# 目次

<b>1 GLOOBE のプレゼンテーション</b>	<b>3</b>
プレゼンシートの作成	3
ウォークスルー・シミュレーション	3
iPad を使ったプレゼン	4
<b>2 プレゼンシートを作成する</b>	<b>5</b>
2-1 CG パースを作成する	5
パースを作成する	5
P-style でパースを加工するには	7
Piranesi でパースを加工するには	8
2-2 カラー図面を作成する	9
平面画像を作成する	9
立面・断面・展開画像を作成するには	9
P-style で平面画像を加工するには	10
P-style で立面画像を加工するには	10
2-3 画像をレイアウトして印刷する	11
用紙枠を作成する	11
テンプレートに登録する	11
用紙に画像を配置する	12
用紙を印刷する	13
<b>3 ウォークスルーモデルでプレゼンする</b>	<b>14</b>
ウォークスルーデータを作成する	14
ウォークスルー・シミュレーション	15
配布用 DVD/CD を作成するには	16
<b>4 iPad でプレゼンする</b>	<b>17</b>
4-1 パース・図面・3D データを準備する	17
CG パースを作成する	17
Web 用の平面図を作成する	17
Web 用の立面図・断面図・展開図を作成するには	18
シートの Web 用ファイルを作成するには	18
Web 用のモデルデータを作成する	19
ieKuru ファイルを作成するには	19
iePon ファイルを作成するには	19
4-2 データをアップロードする	20
ARCHI Box 連携を開く	20
書庫・フォルダを作成する	20
ファイルをドラッグ&ドロップする	20
4-3 iPad でプレゼンする	21
iPad アプリをインストールする	21
パースや図面を確認する	21
モデルを確認するには (fcax3d)	22
モデルを確認するには (ieKuru)	23
モデルを仮想建築するには (iePon)	23
4-4 Windows 版アプリを使用するには	25
ARCHI Box にログインする	25
パースや図面を確認する	25

# 1 GLOOBEのプレゼンテーション

GLOOBEのプレゼンテーションには、次の3つの方法があります。

## プレゼンシートの作成

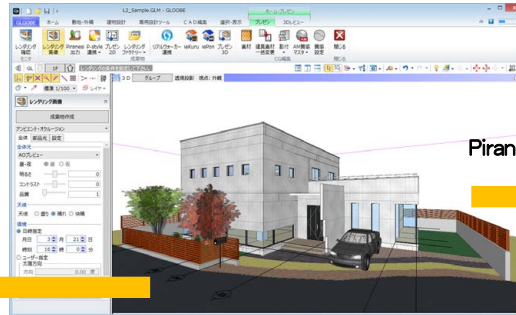
モデルデータからCGパースやカラー図面を作成し、各画像をレイアウトしたプレゼンシートを作成します。

### 【ARCHITREND P-style】



P-style 連携 (平面)  
P-style 連携 (立面)  
P-style 連携 (3D)

エクスポート



レンダリング画像  
プレゼン2D

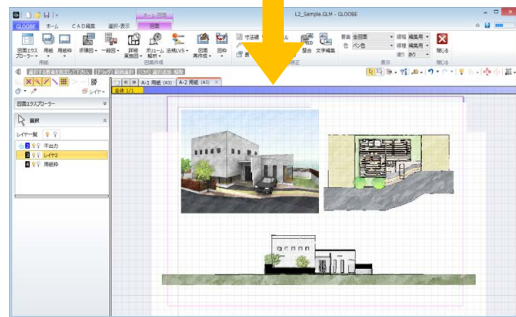
Piranesi 出力

エクスポート

【Piranesi】  
レタッチ処理など

画像ファイル  
(BMP、JPEG、PNG)

イメージ挿入



印刷

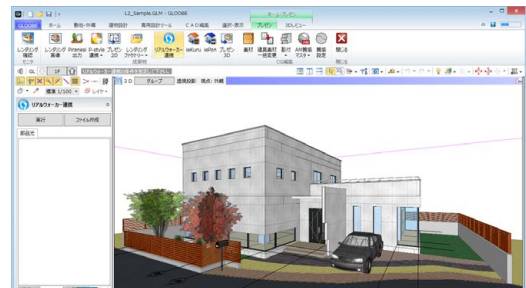


- ※ P-style は GLOOBE のオプションプログラムです。
- ※ Piranesi は株式会社インフォマティクス の3Dペイントソフトです。

## ウォークスルー・シミュレーション

モデルデータからウォークスルーデータを作成し、リアルウォーカーでモデルのウォークスルーやライティング、建材などのシミュレーションを行います。ウォークスルーデータを EXE 形式で収録した CD/DVD を作成することもできます。

※リアルウォーカーは GLOOBE のオプションプログラムです。



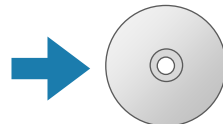
リアルウォーカー連携

### 【ARCHITREND リアルウォーカー】

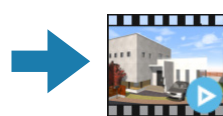


ウォークスルー  
建材 (素材・部品・建具) の張替  
照明シミュレーション  
天候シミュレーション  
日当たりシミュレーション

配布用 DVD/CD の作成



動画の作成



画像の作成



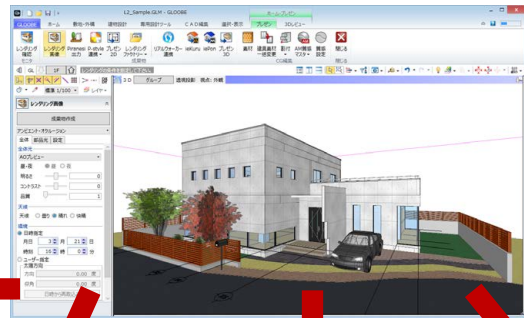
## iPad を使ったプレゼン

モデルデータから作成した CG パースや図面を、Web 上にアップロードして iPad で確認します。3D データを出力して iPad でモデルを確認したり、仮想建築することもできます。

### 【ARCHITREND P-style】



P-style 連携 (3D)  
P-style 連携 (平面)  
P-style 連携 (立面)  
エクスポート



ieKuru 出力  
iePon 出力

レンダリング画像  
プレゼン 2D  
プレゼン 3D

画像ファイル  
(BMP、JPEG、PNG)

Web2D/3D  
(fcax2d、fcax3d)

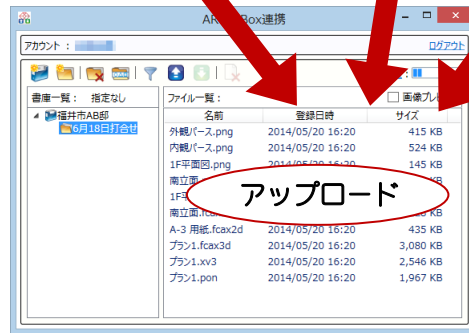
ieKuru ファイル  
iePon ファイル

### iOS アプリケーション 【ARCHI Box】【ieKuru】【iePon】

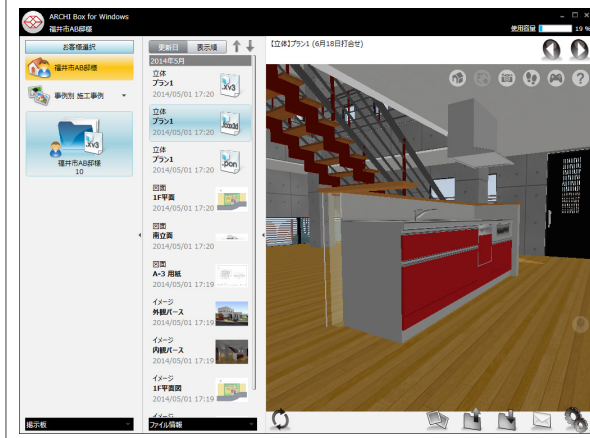


更新

### ARCHIBox 連携



### Windows 版アプリケーション 【ARCHI Box】



Windows 版アプリケーション「ARCHI Box for Windows」を使って ARCHI Box にアップロードされているデータを確認することができます。

- ※「ARCHI Box」「ieKuru」「iePon」のご利用には、プレゼンデータ共有サービス「ARCHI Box」・顧客管理&データ保管サービス「TREND Net」のご契約が必要です。
- ※「ARCHI Box for Windows」のご利用には、プレゼンデータ共有サービス「ARCHI Box」・顧客管理&データ保管サービス「TREND Net」のご契約が必要です。
- ※ 弊社の保守サービス「FCメンバーシップ」の「プログラム保守パック」をご契約のお客様は、ユーザー特典により「ARCHI Box」のご利用が可能です。詳しくは、FC コンシエルの「その他のサービス」の「ARCHI Box」をご覧ください。



# 2 プレゼンシートを作成する

CG パースやカラー図面をレイアウトしたプレゼンシートの作成方法を解説します。

## 2-1 CG パースを作成する

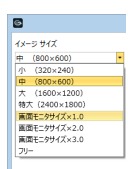
3D ビューで外観や内観のレンダリング結果を確認したら、成果物を作成して画像ファイルを保存しましょう。

※ レンダリングに必要な操作や設定については、目的別マニュアル「レンダリング編」を参照してください。

### パースを作成する

- 1 3D ビューツールバーの または [ホーム] タブの [プレゼンデータ作成] から [プレゼン] タブを開きます。
- 2 [レンダリング画像] をクリックします。
- 3 [成果物作成] をクリックします。
- 4 [イメージサイズ] を確認します。
- 5 [レンダリング実行] をクリックします。  
レンダリング処理が開始します。

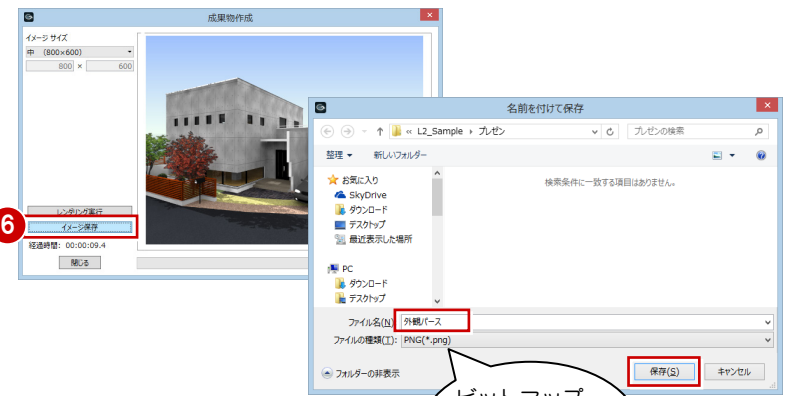
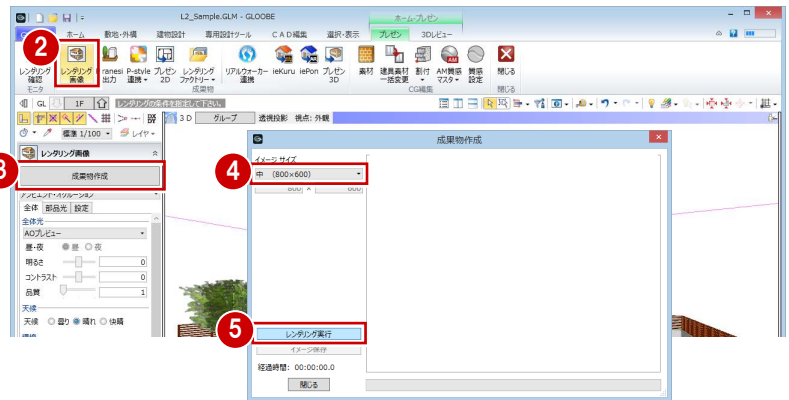
3D ビューを最大化したイメージのまま画像を作成したいときは、「画面モニターサイズ×1.0」～「画面モニターサイズ×3.0」のいずれかを選択します。詳しくはヘルプ「リファレンスガイド」の「レンダリング画像」を参照してください。



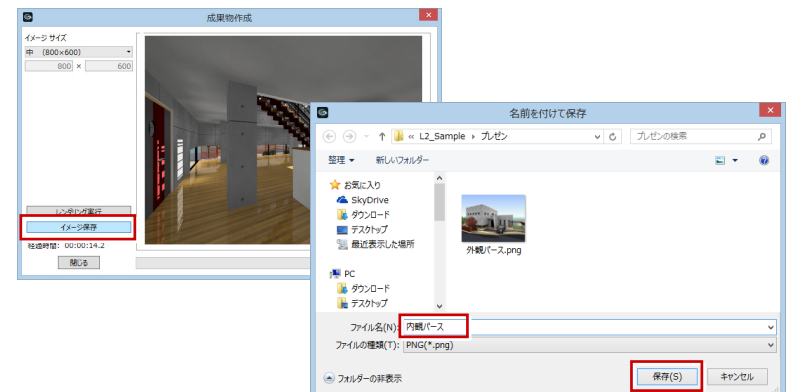
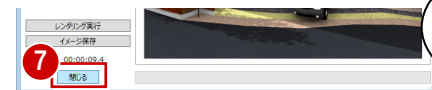
- 6 処理が終了したら、[イメージ保存] をクリックして画像ファイルを保存します。

- 7 [閉じる] をクリックします。

※ 内観パースの成果物作成も、同様な手順で作成できます。



ビットマップ・JPEG・PNGから選択可能



### 補足 シーンについて

[3Dレビュー] タブの [シーン] で3Dビューの視点位置と表示設定を保存することができます。保存したシーンを呼び出すことで同じ視点、表示のパーズをすばやくレンダリングすることができます。詳しくはヘルプ「リファレンスガイド」の「シーン」を参照してください。

現在の視点と表示を追加

マウスポインタをここに移動して表示の設定を変更

呼び出すシーンをクリックしてから [適用]

### 補足 レンダリングファクトリーについて

[プレゼン] タブの [レンダリングファクトリー登録] でいろいろな視点、表示のレンダリング条件を登録して、夜間など空いた時間にまとめてレンダリングを実行することができます。

詳しくはヘルプ「リファレンスガイド」の「レンダリングファクトリー登録/レンダリングファクトリー起動」を参照してください。

ファクトリーに登録

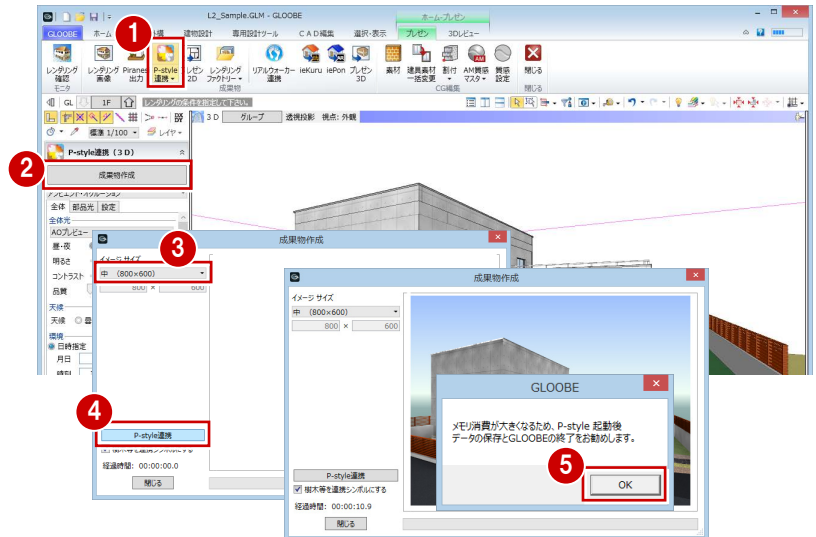
レンダリングファクトリー起動

スタート 停止 解除

レンダリング終了

## P-style でパースを加工するには

- 1 [プレゼン] タブから [P-style 連携 (3D)] をクリックします。
  - 2 [成果物作成] をクリックします。
  - 3 [イメージサイズ] を確認します。
  - 4 [P-style 連携] をクリックします。  
レンダリング処理が始まります。
- 処理が終了すると、メッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックすると、P-style が起動します。

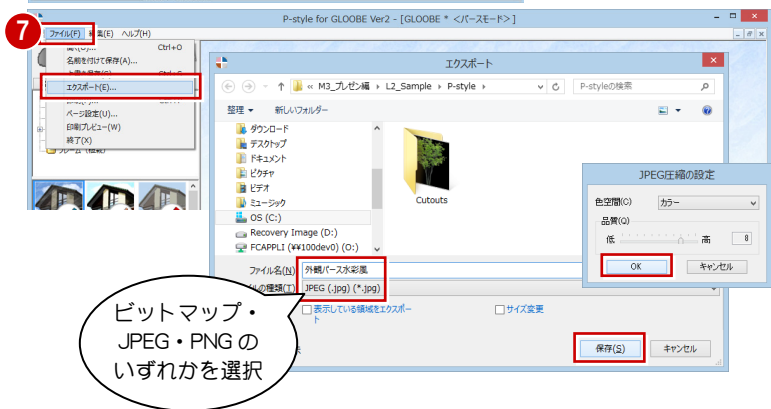


- 6 P-style で画像を加工します。

P-style の詳しい操作方法は、[ヘルプ] メニューの [ヘルプを開く] から表示される手順書を参照してください。



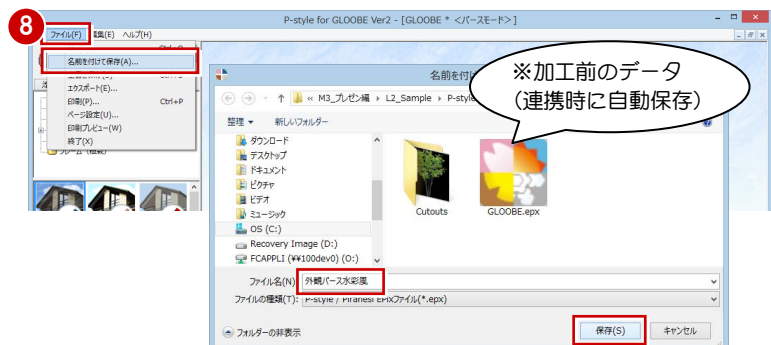
- 7 画像の加工が終了したら、[ファイル] メニューから [エクスポート] を選択して、画像ファイルを出力します。



ビットマップ・JPEG・PNGのいずれかを選択

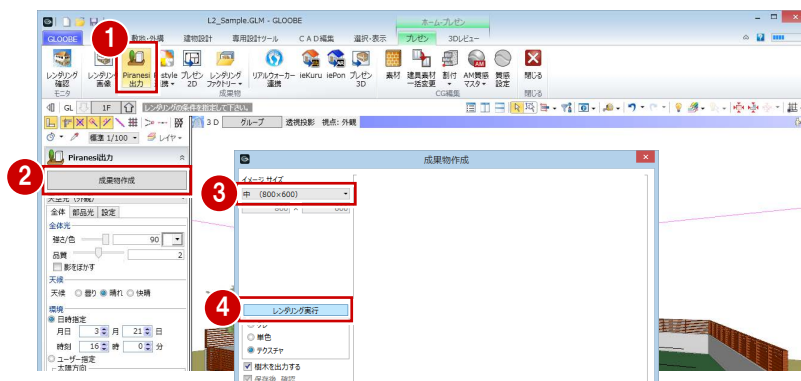
- 8 [ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択して、加工したデータを保存します。

P-style で保存したデータを次回 GLOBE から開くには、[ホーム] タブの [P-style] を選択して EPiX ファイルを指定します。

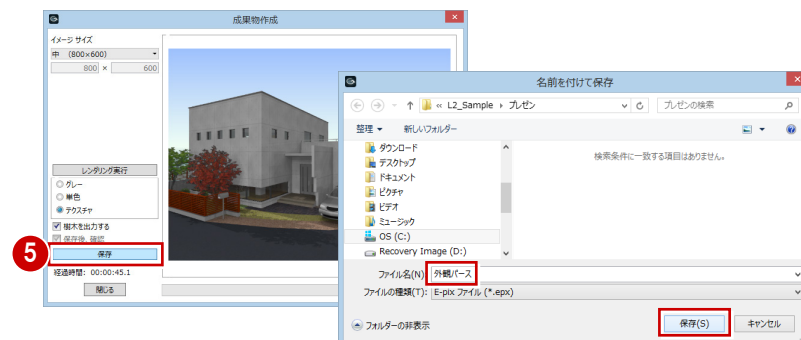


## Piranesi でパースを加工するには

- 1 [プレゼン] タブから [Piranesi 出力] をクリックします。
- 2 [成果物作成] をクリックします。
- 3 [イメージサイズ] を確認します。
- 4 [レンダリング実行] をクリックします。  
レンダリング処理が始まります。



- 5 処理が終了したら、[保存] をクリックして Piranesi のデータを保存します。



[保存後、確認] のチェックが付いている場合は、Piranesi が起動します。

- 6 Piranesi で画像を加工します。
- 7 画像の加工が終了したら、[ファイル] メニューから [エクスポート] を選択して、画像ファイルを出力します。

Piranesi 画面

Piranesi の画面・操作方法については、Piranesi 付属のマニュアルやヘルプをご覧ください。



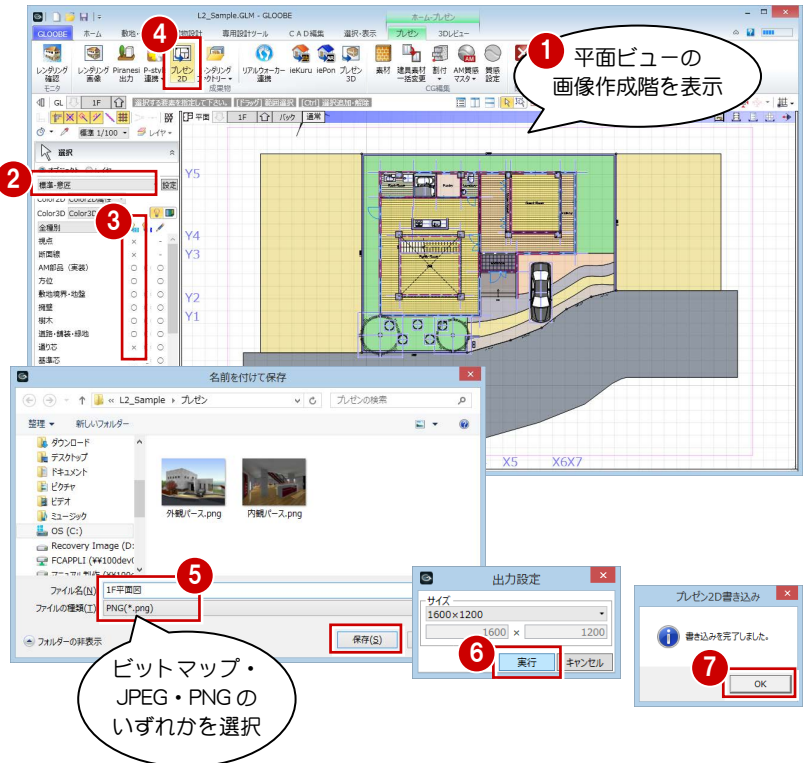
## 2-2 カラー図面を作成する

### 平面画像を作成する

- ① 現在のビューを、「平面」の画像を作成する階に切り替えます。
- ② 表示テンプレートを切り替えます。  
ここでは「意匠」を選びます。
- ③ 画像に表示したくないデータは、2D表示を「×」にして消しておきます。
- ④ [プレゼン] タブから [プレゼン 2D] をクリックします。
- ⑤ ファイルの種類を選択して、画像ファイルを保存します。
- ⑥ [サイズ] を確認して [実行] をクリックします。  
作成処理が開始します。
- ⑦ 完了したら [OK] をクリックします。

画像は、現在のビューの表示データがすべて収まる範囲で作成されます。

[サイズ] で画像のピクセルサイズ（横×縦）を指定できます。  
詳しくは、ヘルプ「リファレンスガイド」の「プレゼン 2D 書き込み」を参照してください。

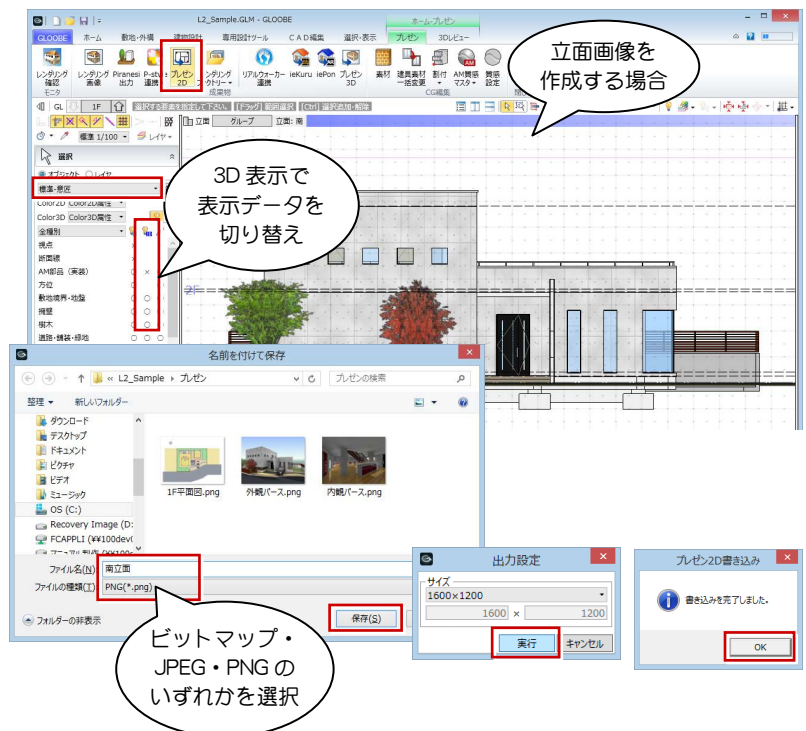


ビットマップ・JPEG・PNGのいずれかを選択

### 立面・断面・展開画像を作成するには

立面、断面、展開画像を作成するには、各ビューを画像を作成する面に切り替えて、平面画像と同様な操作で作成します。

立面、断面ビューの場合、画像に表示したくないデータは、3D表示を「×」にして消しておきます。



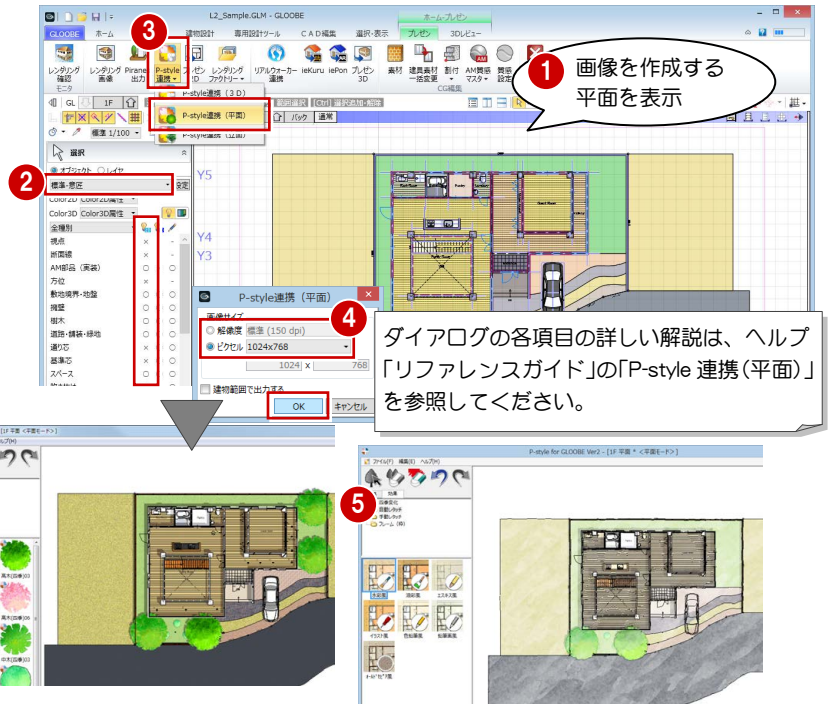
ビットマップ・JPEG・PNGのいずれかを選択

## P-style で平面画像を加工するには

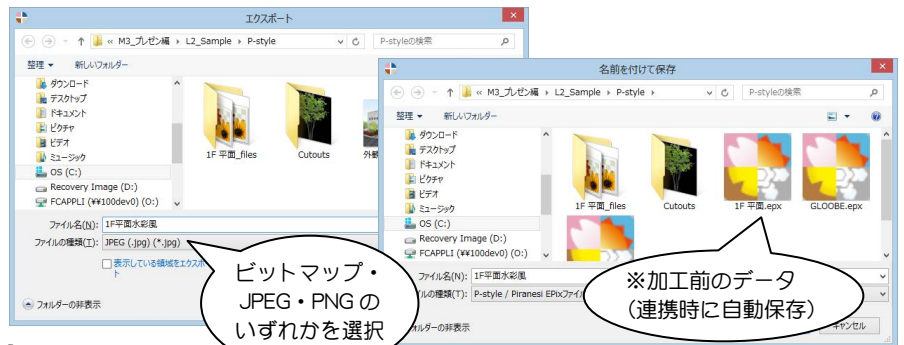
- 1 現在のビューを、画像を作成する平面に切り替えます。
- 2 表示テンプレートを確認して、画像に表示したくないデータは、2D表示を「×」にします。
- 3 [P-style 連携] メニューから [P-style 連携 (平面)] を選びます。
- 4 [画像サイズ] を選択して [OK] をクリックします。連携処理が始まります。

処理が終了すると、P-style が起動します。

- 5 P-style で画像を加工します。



※ 画像の加工が終了したら、画像ファイルを出力して、データを保存します。詳しい操作方法は P.7 の手順 7③ を参照してください。

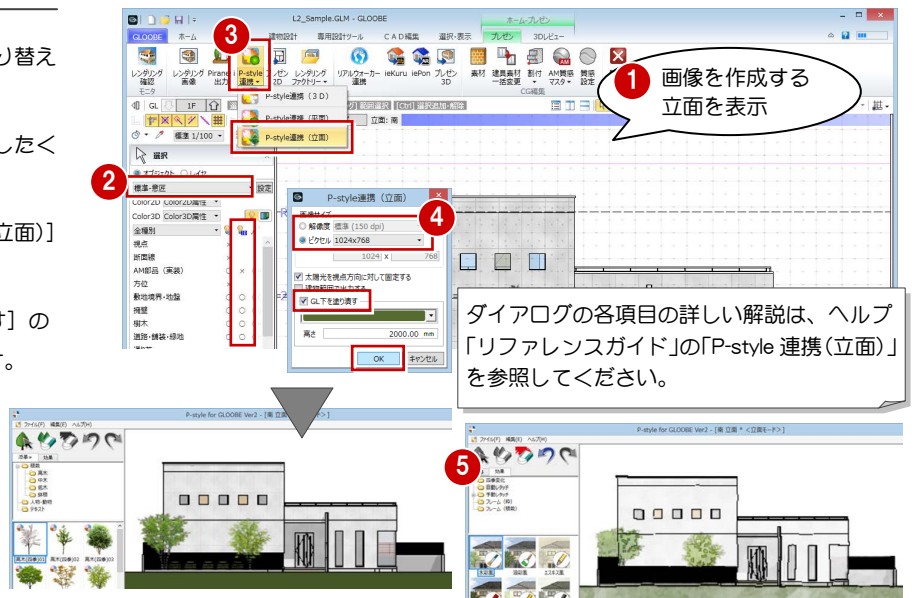


## P-style で立面画像を加工するには

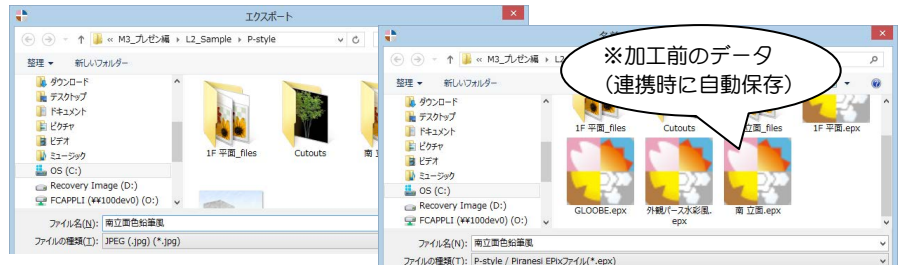
- 1 現在のビューを、画像を作成する立面に切り替えます。
- 2 表示テンプレートを確認して、画像に表示したくないデータは 3D表示を「×」にします。
- 3 [P-style 連携] メニューから [P-style 連携 (立面)] を選びます。
- 4 [画像サイズ] を選択し、[GL下を塗り潰す] のチェックを付けて [OK] をクリックします。連携処理が始まります。

処理が終了すると、P-style が起動します。

- 5 P-style で画像を加工します。



※ 画像の加工が終了したら、画像ファイルを出力して、データを保存します。詳しい操作方法は P.7 の手順 7③ を参照してください。



## 2-3 画像をレイアウトして印刷する

パースやカラー図面の画像ファイルを保存したら、プレゼンシートを作成して印刷してみましょう。

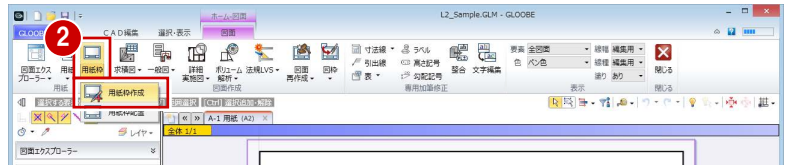
ここでは、A3サイズ（横）の白紙に画像をレイアウトして印刷する方法を解説します。

### 用紙枠を作成する

① [ホーム] タブの [図面作成] から [図面] タブを開きます。



② [用紙枠] メニューから [用紙枠作成] を選びます。



[用紙枠作成] タブが開きます。

③ [用紙サイズ] をクリックします。

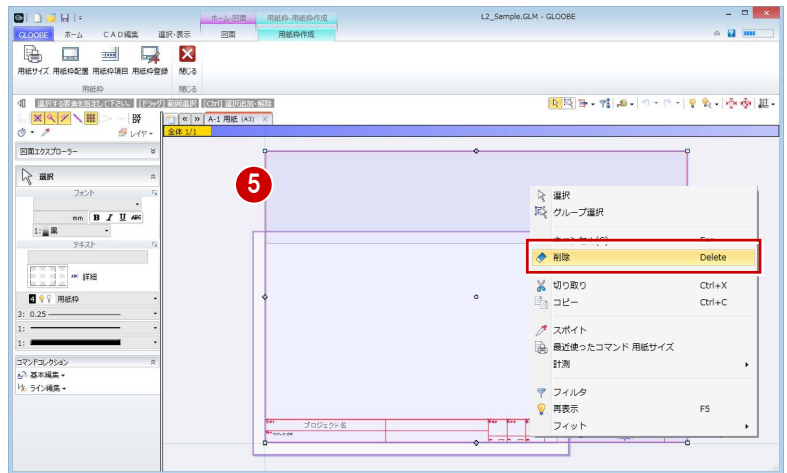


④ 用紙のサイズ、向きを設定します。

ここでは「A3」「横」にします。

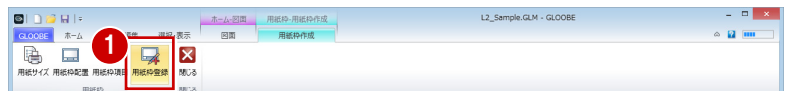


⑤ 現在配置されているデータをすべて削除して、白紙の用紙枠にします。

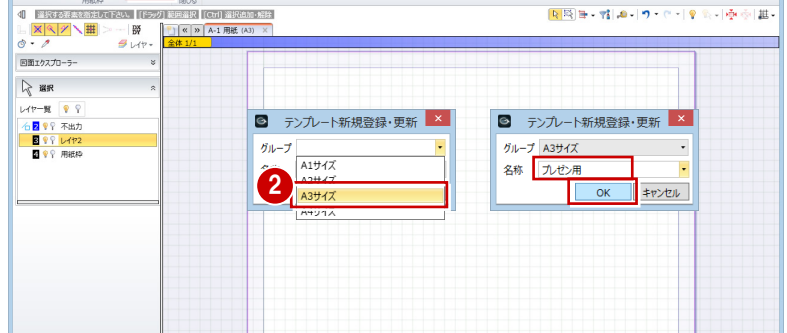


### テンプレートに登録する

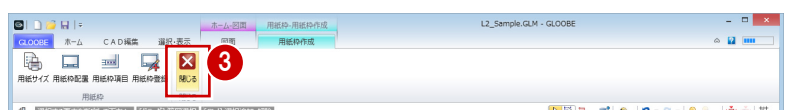
① [用紙枠登録] をクリックします。



② 「A3サイズ」のグループに「プレゼン用」として登録します。



③ [閉じる] をクリックして、[図面] タブに戻ります。



## 用紙に画像を配置する

① [一般図] メニューから [イメージ] を選びます。

② 管理フォルダ内の「プレゼン」フォルダを開きます。

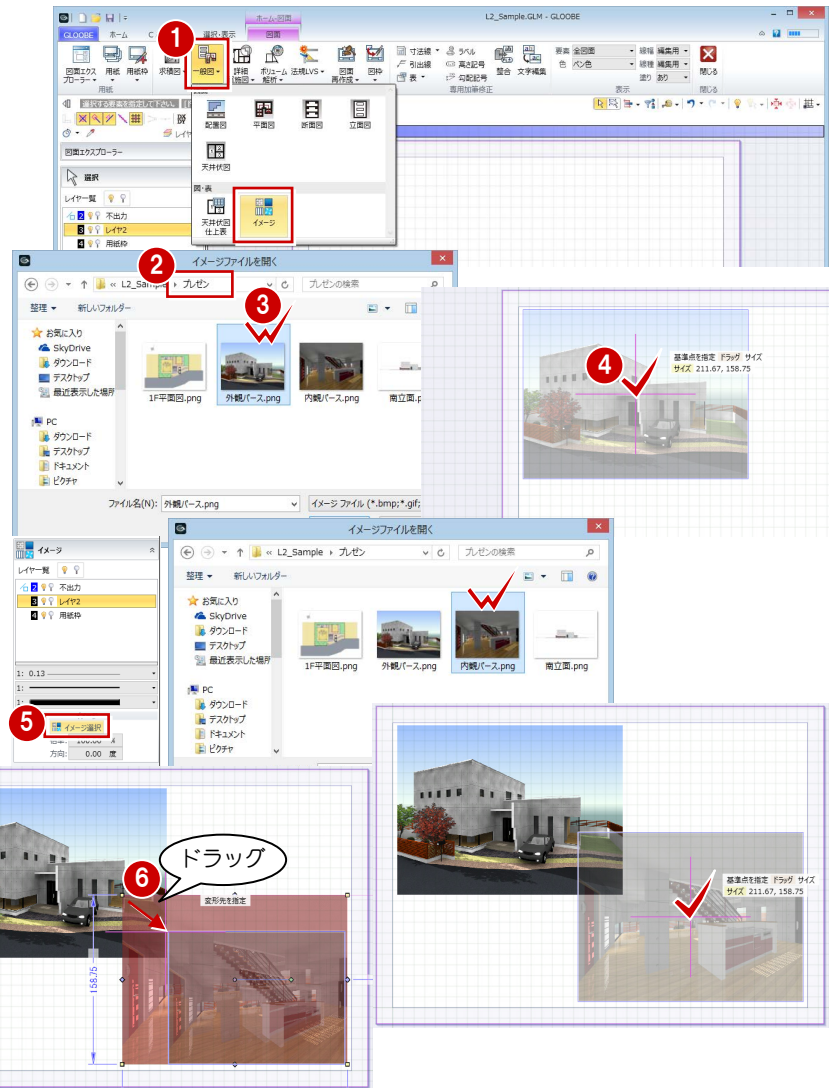
③ 画像ファイルを選択します。

④ 画像の基準点をクリックします。

※ このとき範囲をドラッグして、サイズ指定で画像を配置することもできます。

⑤ [イメージ選択] をクリックして、他の画像も配置します。

⑥ トラックバーを操作して、画像のサイズや位置を調整します。



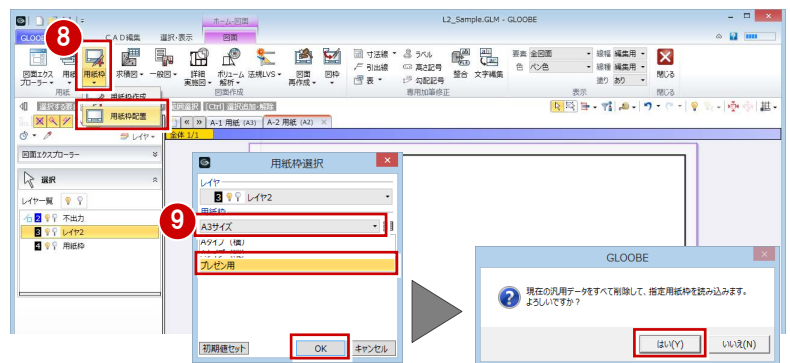
続けて、2枚目の用紙を用意して、残りの画像を配置します。

⑦ [用紙の追加] をクリックします。

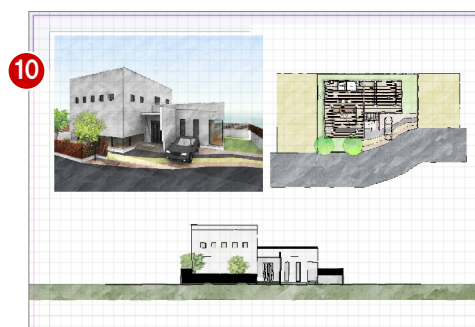


⑧ [用紙枠] メニューから [用紙枠配置] を選びます。

⑨ 「A3サイズ」グループに登録した「プレゼン用」を選択します。



⑩ 1枚目のシートと同様に、画像を配置します。

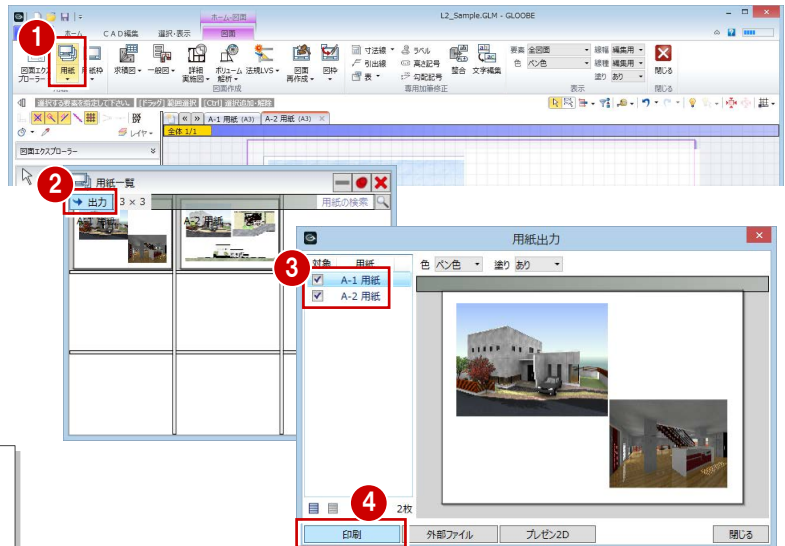


画像が重なっている箇所の上下を入れ替えるには、[CAD 編集]タブの [表示順] メニューから [最前面へ] (または [最背面へ] [前面へ] [背面へ]) を選びます。

## 用紙を印刷する

- ① [用紙一覧] をクリックします。
- ② [用紙一覧] ダイアログの [出力] をクリックします。
- ③ 印刷する用紙にチェックを付けます。
- ④ [印刷] をクリックします。

プレゼンシートを iPad で確認するには、[プレゼン 2D] で Web 用の図面ファイルを出力し、[ARCHIBOX 連携] でファイルをアップロードします。  
詳しくは P.17「4 iPad でプレゼンする」を参照してください。



# 3 ウォークスルーモデルでプレゼンする

ここでは、モデルデータからウォークスルーデータを作成し、リアルウォーカーでウォークスルーや各種シミュレーションを行う方法、EXE形式のウォークスルーデータを収録したCD/DVDを作成する方法について解説します。

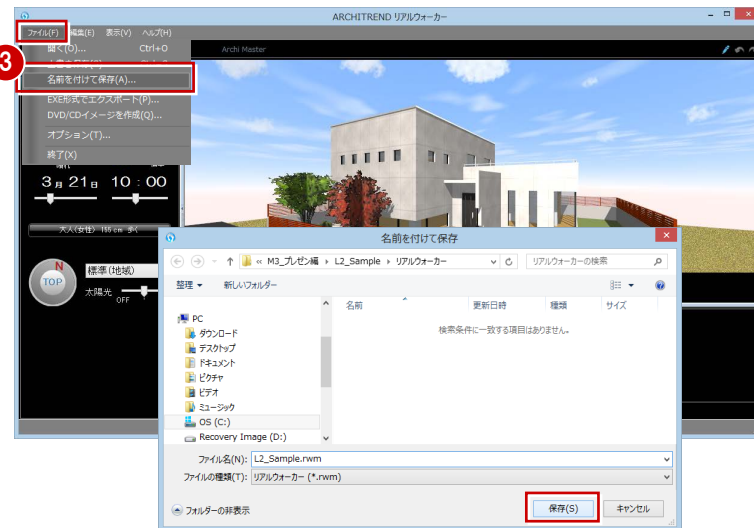
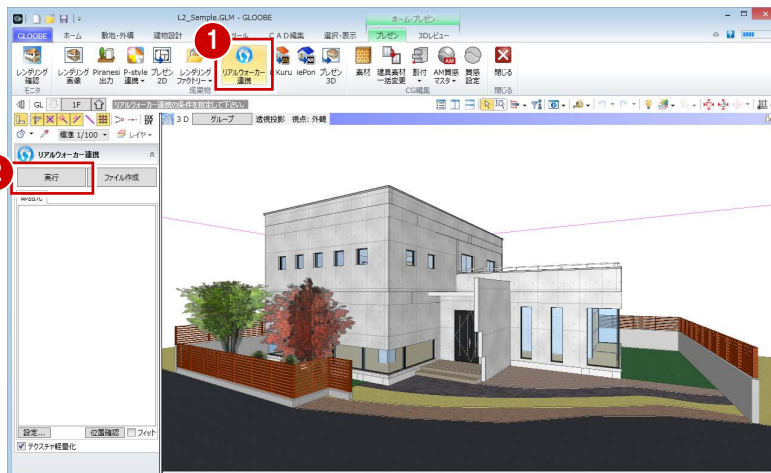
## ウォークスルーデータを作成する

① [プレゼン] タブから [リアルウォーカー連携] をクリックします。

② [実行] をクリックします。  
連携処理が開始します。

完了すると、リアルウォーカーが起動します。

③ [ファイル] メニューから [名前を付けて保存] を選択して、ウォークスルーデータを保存しておきます。



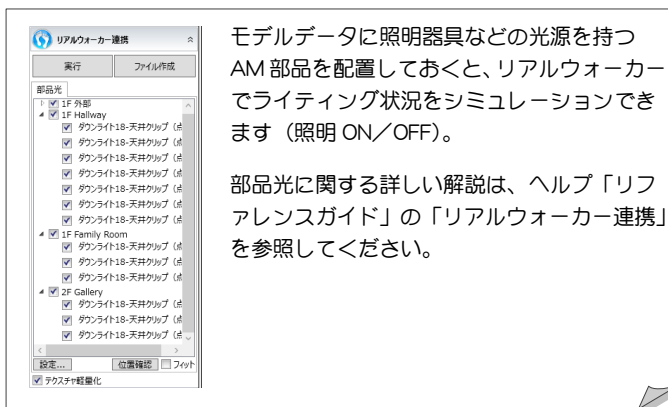
リアルウォーカーは起動せず、ウォークスルーデータだけを作成したいときには、[ファイル作成] でファイルを保存します。

保存したファイルを開くときは、[ホーム] タブの [リアルウォーカー] でファイルを指定してリアルウォーカーを起動します。



モデルデータに照明器具などの光源を持つ AM 部品を配置しておく、リアルウォーカーでライティング状況をシミュレーションできます (照明 ON/OFF)。

部品光に関する詳しい解説は、ヘルプ「リファレンスガイド」の「リアルウォーカー連携」を参照してください。



## ウォークスルー・シミュレーション

キー操作やマウス操作、ジョイパッドなどを使用してウォークスルーを行います。

リアルウォーカーの詳しい操作解説は  
[ヘルプ] メニューより [機能ガイド]  
をご覧ください。



### キー操作によるウォークスルー

- ・前進：Sキー
- ・左へ移動：Zキー
- ・上へ移動：Dキー
- ・後退：Xキー
- ・右へ移動：Cキー
- ・下へ移動：Aキー

※Shift キーを同時に押すと動きが速くなります。

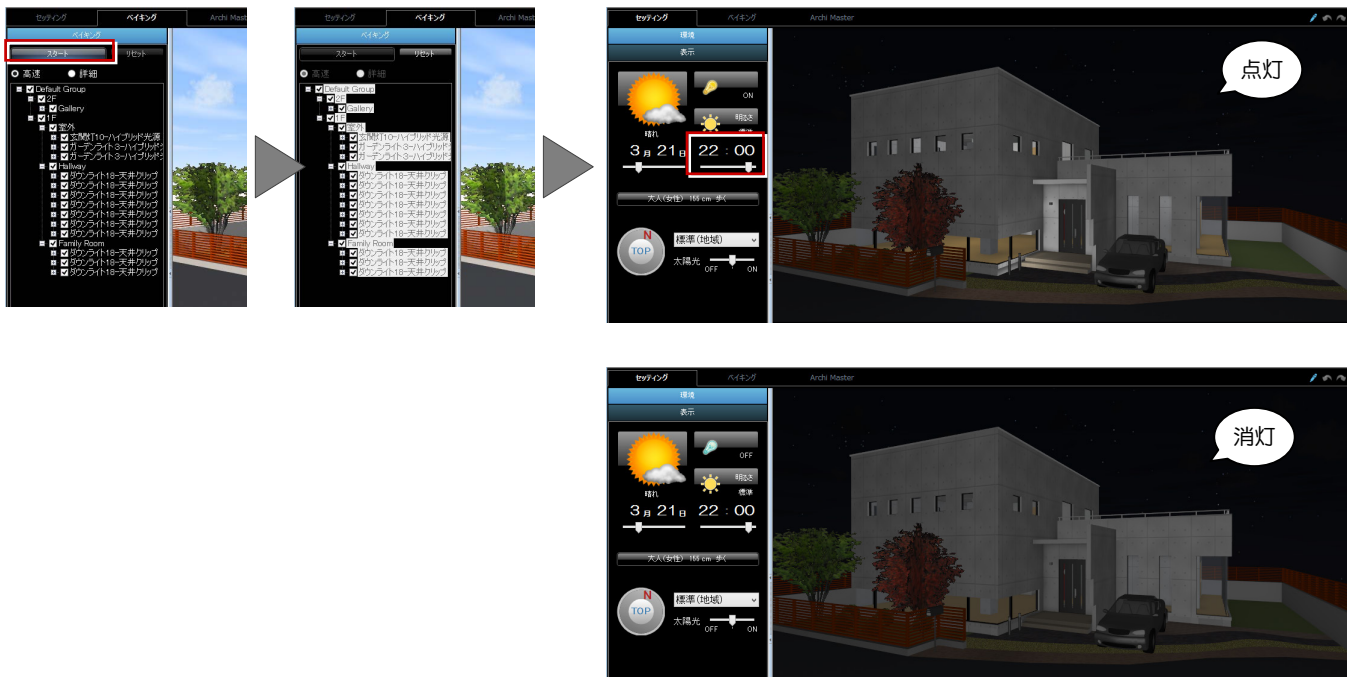
※E キーを同時に押すと一時的に壁や障害物をすり抜けます。

### 視点の切り替え

カメラパネルのサムネイルをクリックすると、ビューの表示が切り替わります。

## ライティングのシミュレーション

[バイキング] タブで部品光源のバイク処理を行います。[セッティング] タブに戻り、時刻を調整して照明の ON/OFF を切り替えます。



## 建材の張替

[Archi Master]タブで建材（素材・部品・建具）の種類を選び、パネルからドラッグ&ドロップします。



建具と部品も AM 建具同士、AM 部品同士で入れ替えが可能です。

※ ビュー右上の または Ctrl + Z キーで元に戻すことができます。

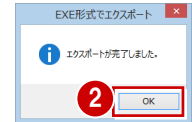
配布用 DVD/CD を作成するには

1 [ファイル] メニューから [EXE 形式でエクスポート] を選択して、ウォークスルーデータの EXE ファイルを出力します。



システムの種類を選択する画面が表示された場合は、出力した EXE ファイルを使用する PC の OS の種類を選択します。OS の種類がわからない場合は、[32bit/64bit OS 共通] を選択してください。

2 [OK] をクリックします。

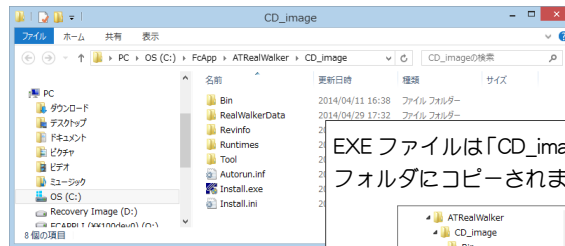


3 [ファイル] メニューから [DVD/CD イメージを作成] を選択します。



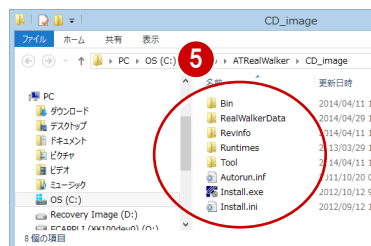
4 ファイルを確認して [作成] をクリックします。

エクスプローラーが開き、リアルウォーカーのインストールフォルダ内の「CD\_image」フォルダが表示されます。

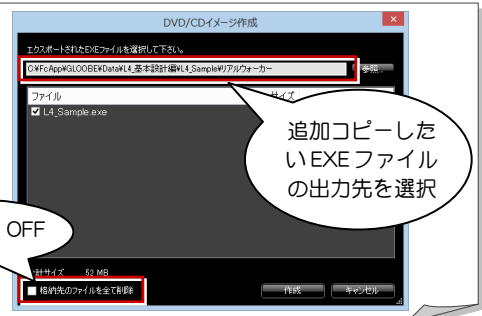


EXE ファイルは「CD\_image」の「RealWalkerData」フォルダにコピーされます。

5 エクスプローラーやライティングソフトなどを利用して、「CD\_image」フォルダ内のファイルとフォルダを DVD または CD に書き込みます。



DVD/CD に複数のウォークスルーデータを収録したい場合は、それぞれのウォークスルーデータで EXE ファイルを出力しておきます。1 つ目の EXE ファイルで CD イメージを作成した後、再度 [DVD/CD イメージを作成] を実行し、残りの EXE ファイルを「CD\_image」の「RealWalkerData」フォルダにコピーします。このときすでにコピーされているファイルが削除されないように、[格納先のファイルを全て削除] のチェックを外してから [作成] を選択してください。





# 4 iPad でプレゼンする

GLOOBE で作成したパースや図面、3D データを Web 上にアップして、iPad で確認する方法を解説します。

## 4-1 パース・図面・3D データを準備する

### CG パースを作成する

GLOOBE で外観や内観などのパース画像を作成します。

P-style などのソフトでパース画像を加工した場合は、画像ファイルを出力しておきます。

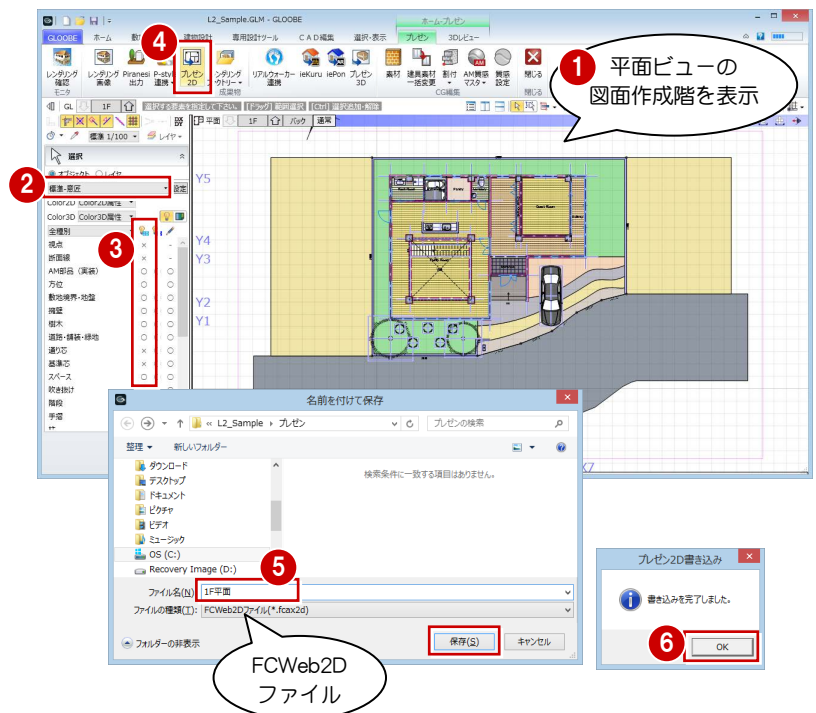
※ 詳しい操作方法は P.5 「2-1 CG パースを作成する」を参照してください。



Web にアップするパース画像は、ビットマップよりファイルサイズが小さい JPEG または PNG ファイルがお勧めです。

### Web 用の平面図を作成する

- 1 現在のビューを、「平面」の図面を作成する階に切り替えます。
- 2 表示テンプレートを切り替えます。  
ここでは「意匠」を選びます。
- 3 図面に表示したくないデータは、2D 表示を「×」にします。
- 4 [プレゼン] タブから [プレゼン 2D] をクリックします。
- 5 FCWeb2D ファイルが選択されていることを確認して図面ファイルを保存します。  
作成処理が開始します。
- 6 完了したら [OK] をクリックします。



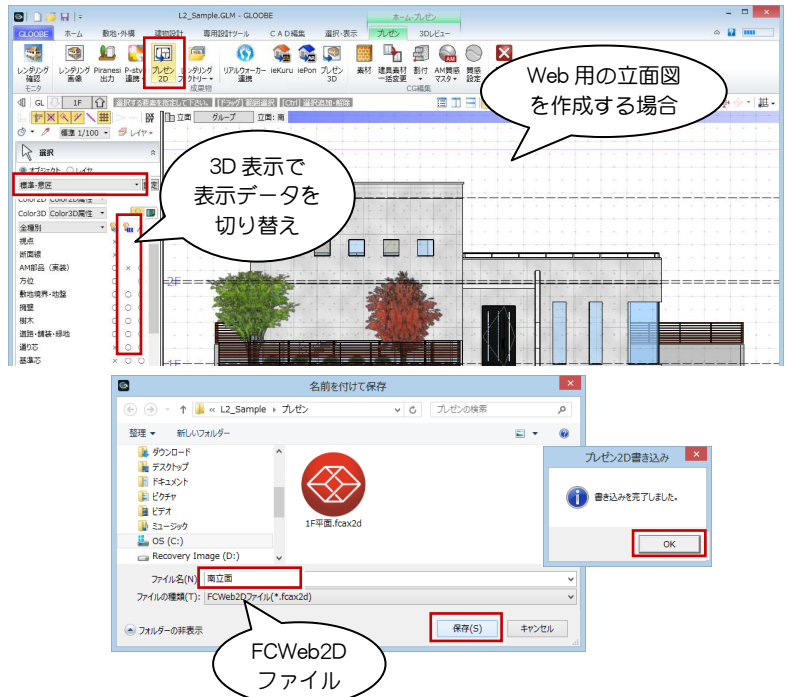
図面は、現在のビューの表示データがすべて収まる範囲で作成されます。

Web 上で図面を見るには、FCWeb2D ファイルがお勧めです。アップロードする前に ARCHI Box for Windows 付属のビューアで確認することができます。詳しくは、P.25 の補足を参照してください。

## Web用の立面図・断面図・展開図を作成するには

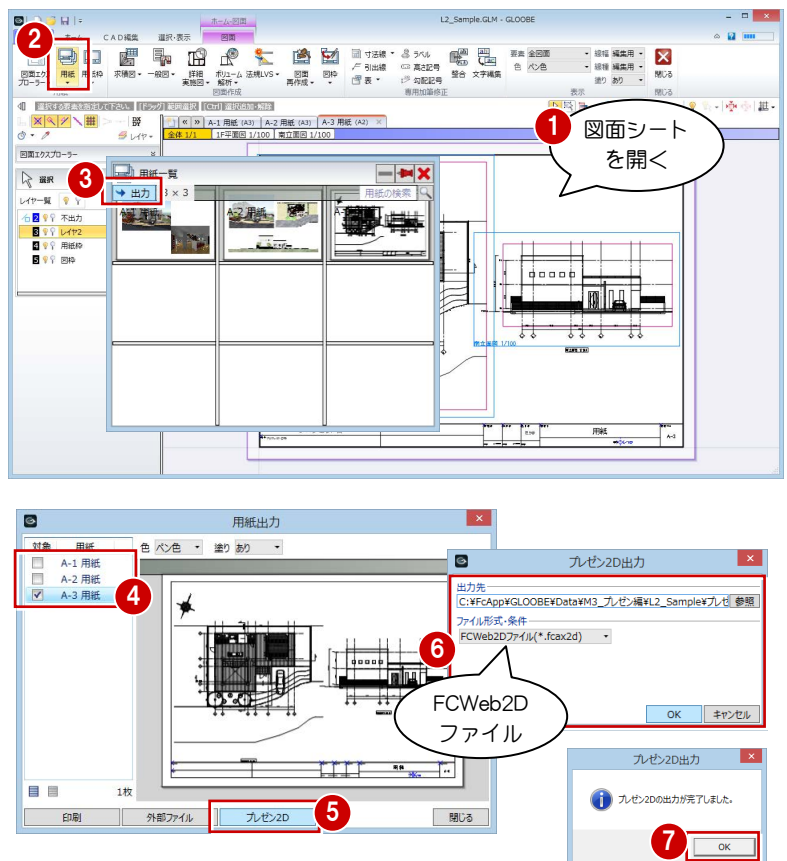
Web用の立面図、断面図、展開図を作成するには、各ビューを作成する面に切り替えて、Web用の平面図と同様な操作で作成します。

立面、断面ビューの場合、図面に表示したくないデータは、3D表示を「×」にして消しておきます。



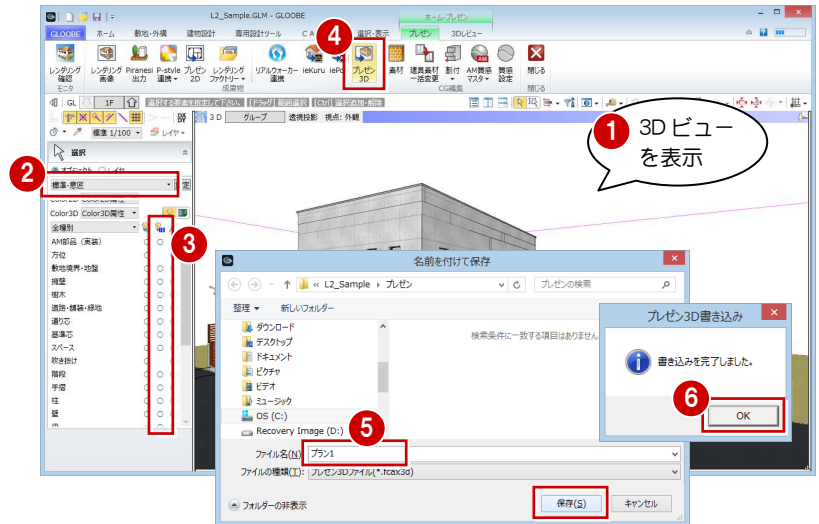
## シートのWeb用ファイルを作成するには

- ① 図面シートを開きます。
- ② [図面] タブから [用紙一覧] をクリックします。
- ③ [用紙一覧] ダイアログの [出力] をクリックします。
- ④ 図面がある図面用紙のみチェックを付けます。
- ⑤ [プレゼン 2D] をクリックします。
- ⑥ 出力先のフォルダとFCWeb2Dファイルが選択されていることを確認して、ファイルを出力します。
- ⑦ [OK] をクリックします。



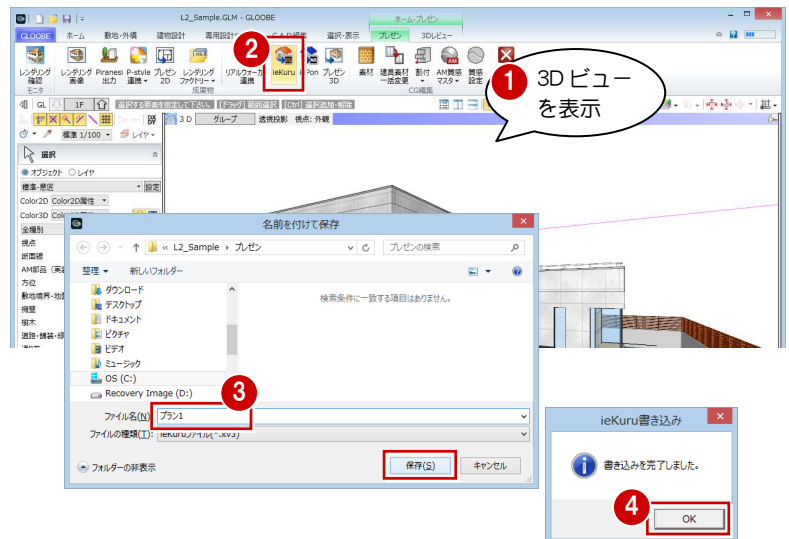
## Web 用のモデルデータを作成する

- 1 現在のビューを 3D ビューに切り替えます。
- 2 表示テンプレートを切り替えます。  
ここでは「意匠」を選びます。
- 3 画面に表示したくないデータは、3D 表示を「×」にします。
- 4 [プレゼン] タブから [プレゼン 3D] をクリックします。
- 5 名前を付けてファイルを保存します。  
作成処理が開始します。
- 6 完了したら [OK] をクリックします。



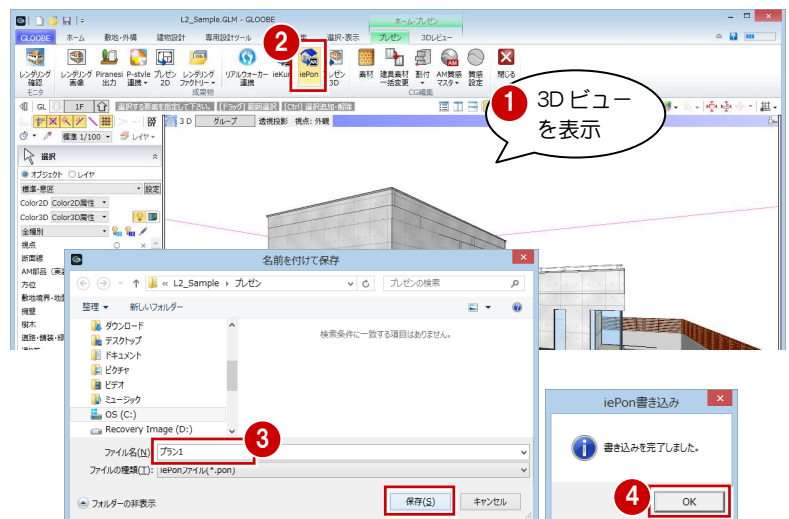
## ieKuru ファイルを作成するには

- 1 現在のビューを 3D ビューに切り替えます。
- 2 [プレゼン] タブから [ieKuru] をクリックします。
- 3 名前を付けて、ieKuru ファイルを保存します。  
作成処理が開始します。
- 4 完了したら [OK] をクリックします。



## iePon ファイルを作成するには

- 1 現在のビューを 3D ビューに切り替えます。
- 2 [プレゼン] タブから [iePon] をクリックします。
- 3 名前を付けて、iePon ファイルを保存します。  
作成処理が開始します。
- 4 完了したら [OK] をクリックします。



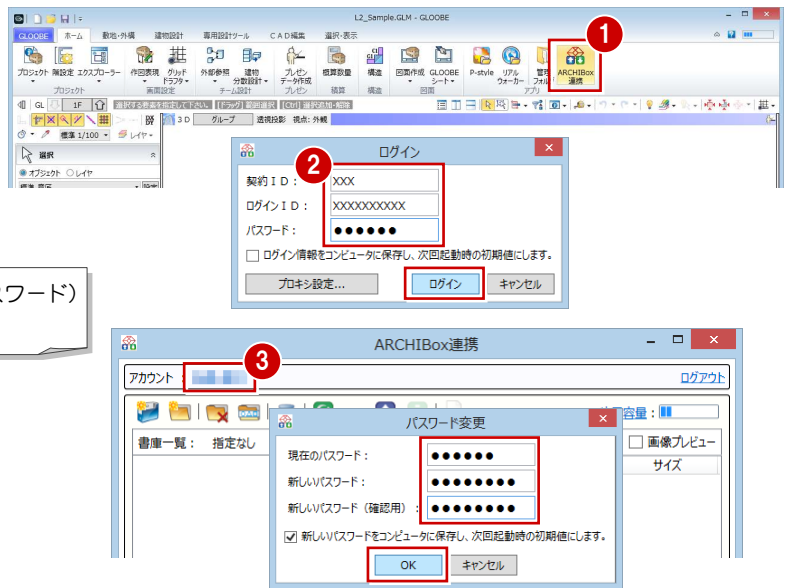
## 4-2 データをアップロードする

### ARCHI Box 連携を開く

- 1 [ホーム] タブの [ARCHIBox 連携] をクリックします。
- 2 ARCHI Box の「契約ID」「ログインID」「仮パスワード」を入力して、ログインします。

ARCHI Box のアカウント（契約ID、ログインID、仮パスワード）は、申込時に登録したメールアドレスに通知されます。

- 3 画面左上の [アカウント] のリンクをクリックして、パスワードを変更しておきます。



### 書庫・フォルダを作成する

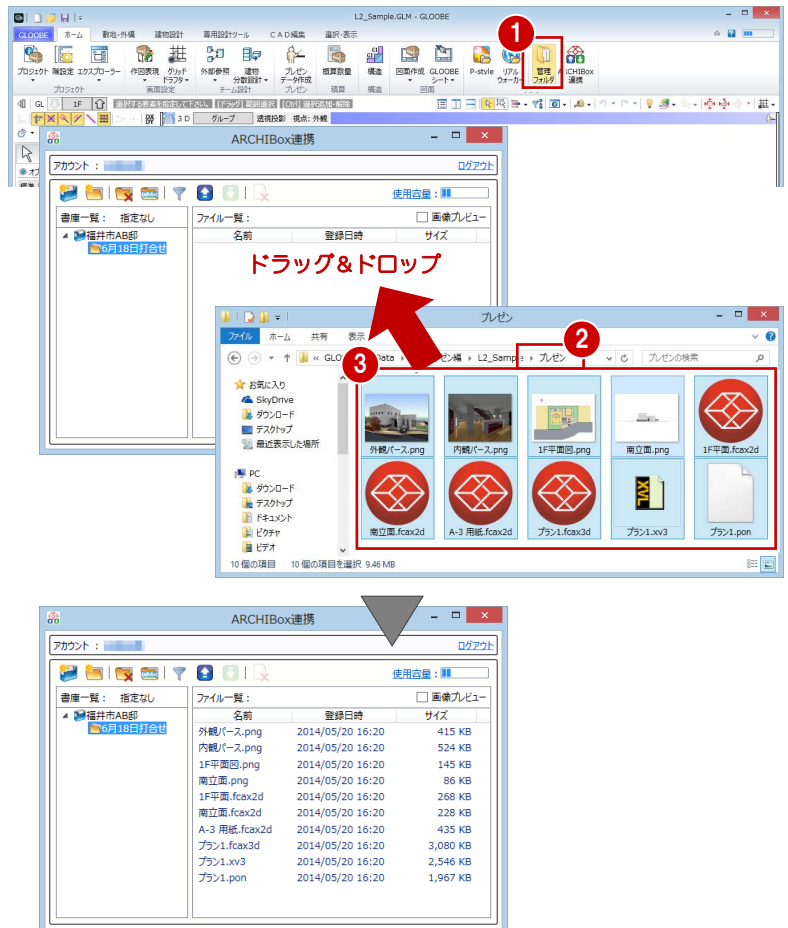
- 1 [新規書庫] をクリックして、新しい書庫を作成します。
- 2 [フォルダ作成] をクリックして、書庫内にデータをアップロードするフォルダを作成します。



### ファイルをドラッグ&ドロップする

- 1 [ホーム] タブの [管理フォルダ] をクリックします。作業中のプロジェクトの管理フォルダが開きます。
- 2 「プレゼン」フォルダを開きます。
- 3 パースや図面などのファイルを [ARCHIBox 連携] の [ファイル一覧] にドラッグ&ドロップします。

※ 画像ファイルなどが別のフォルダにある場合は、そのフォルダに切り替えて、同様な操作でアップロードします。



[ARCHIBox 連携] のその他の機能は、ヘルプ「リファレンスガイド」の「ARCHIBox 連携」を参照してください。

## 4-3 iPad でプレゼンする

### iPad アプリをインストールする

- 1 iPad で [App Store] を開きます。
- 2 キーワード「福井コンピュータアーキテクト」で検索すると、「ARCHI Box」「ieKuru」「iePon」の3つのアプリケーションが検索されます。
- 3 各アプリケーションをインストールします。

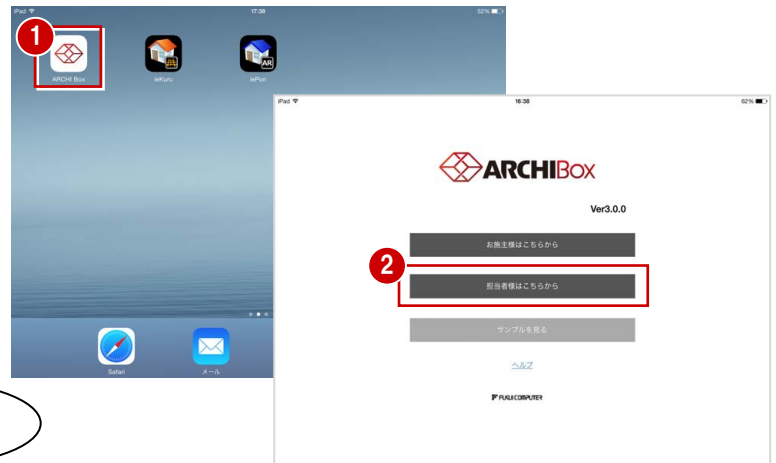
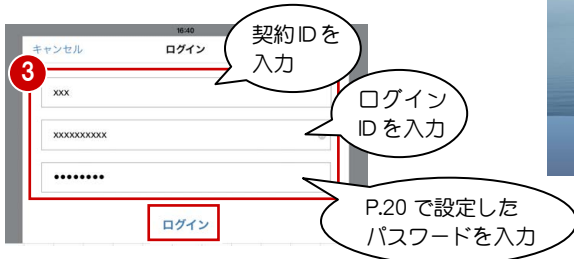


各アプリケーションをインストール後、最新版がアップされている場合は、アップデートしておきます。



### パスや図面を確認する

- 1 「ARCHI Box」アイコンをタップします。
- 2 「担当者様はこちらから」をタップします。
- 3 ARCHI Box の「契約ID」「ログインID」「パスワード」を入力して、[ログイン] をタップします。



- 4 「書庫ケース」のアイコンをタップします。

メニュー  
タップすると他のメニュー項目が出てきます。



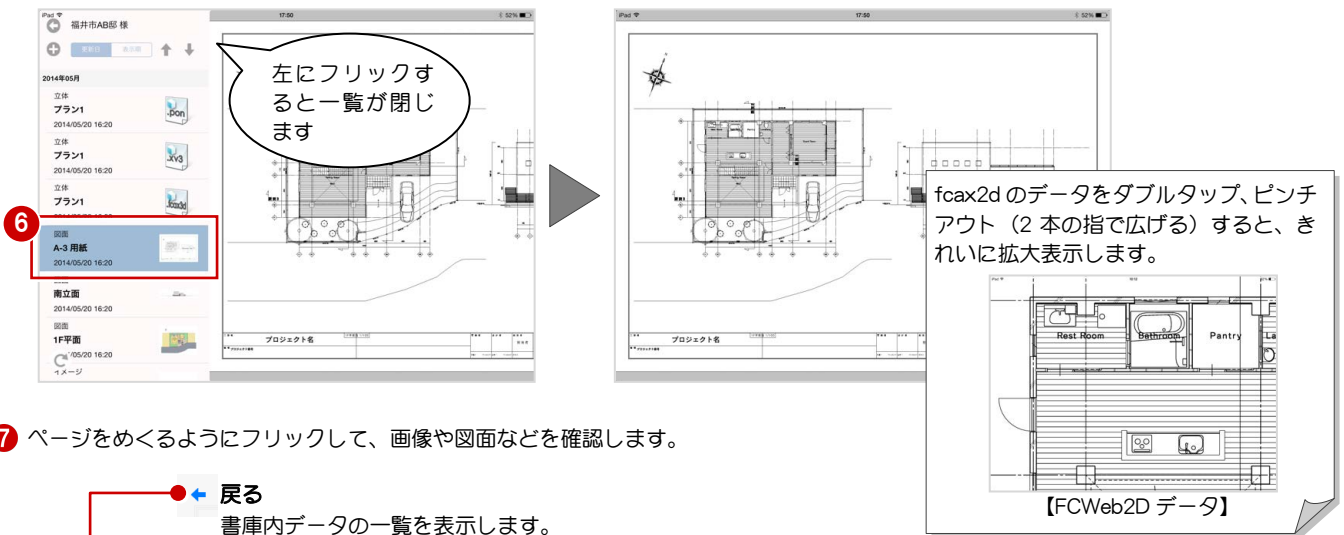
- 5 「書庫」のアイコンをタップします。

**更新**  
お客様の追加や書庫、ファイルの追加、変更等があった場合は、ここをタップして内容を更新します。

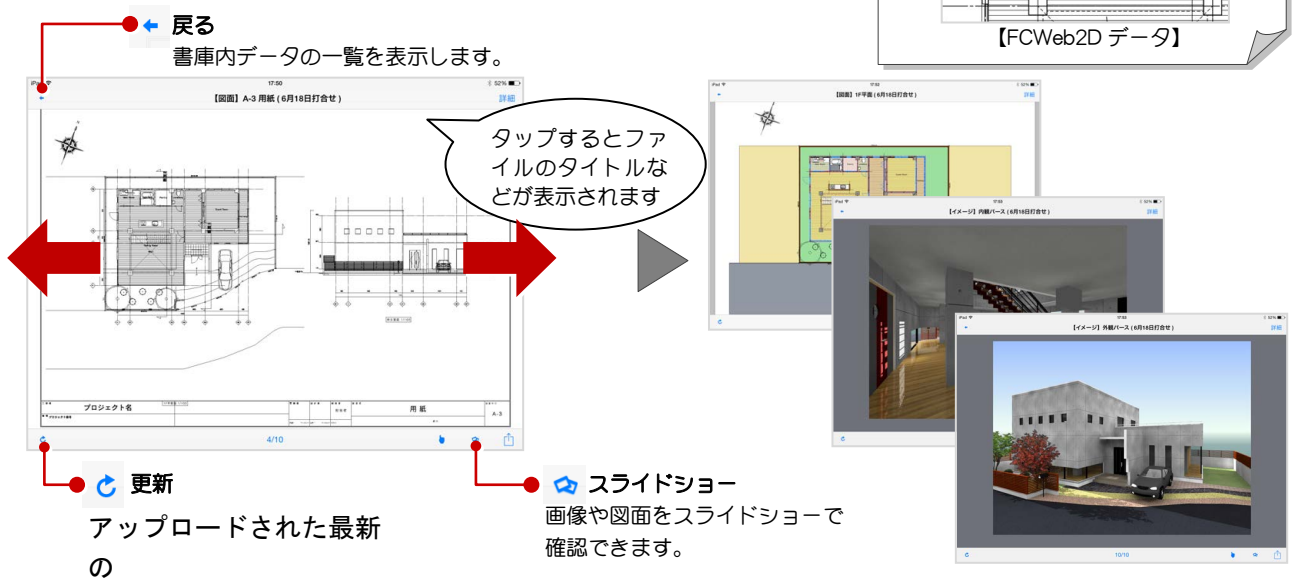
「ARCHI Box」のその他の機能については、ヘルプを参照してください。



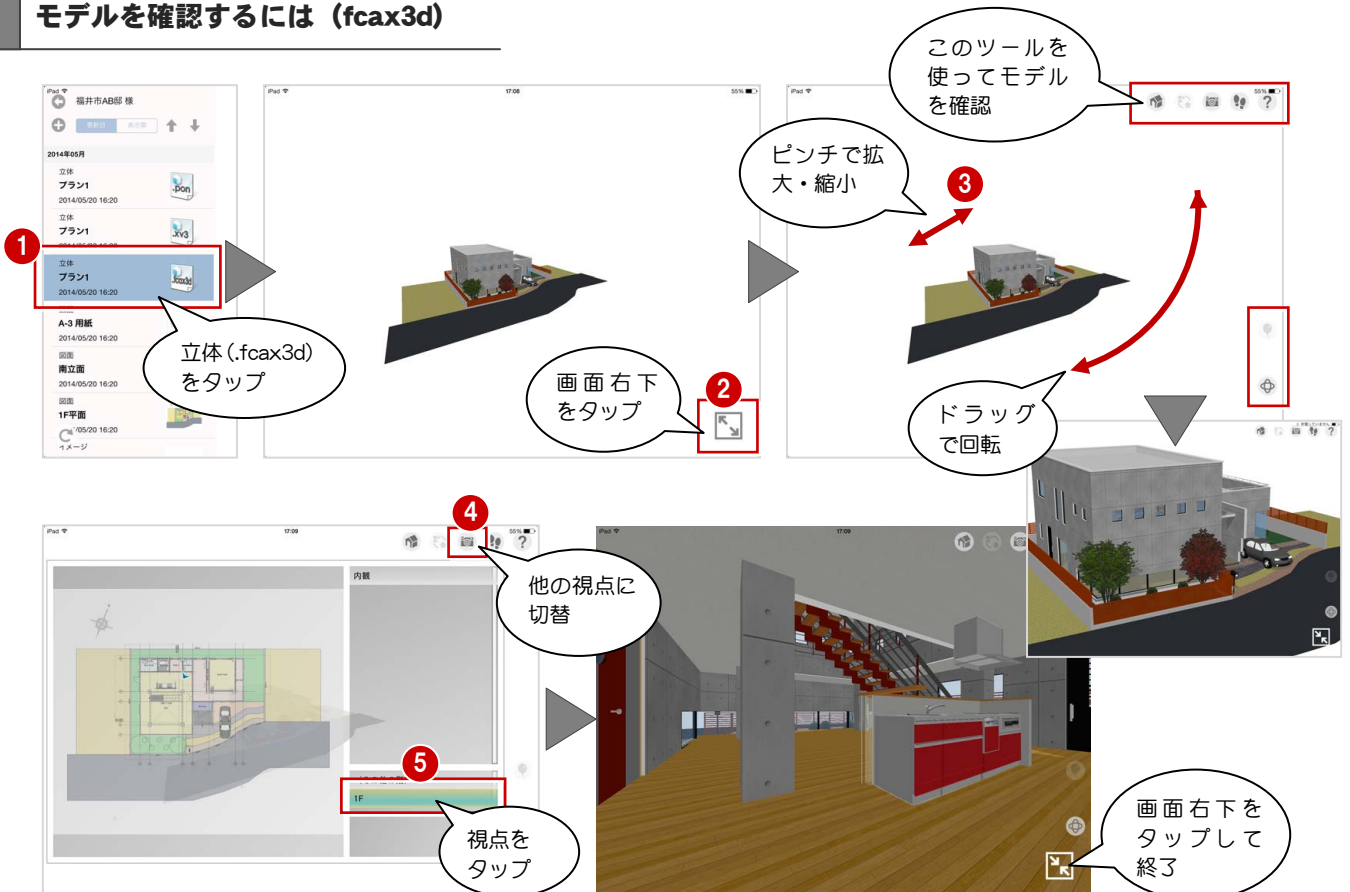
6 一覧から表示するデータをタップします。



7 ページをめくるようにフリックして、画像や図面などを確認します。



モデルを確認するには (fcax3d)



## モデルを確認するには (ieKuru)

1 立体 (.xv3) をタップ

2 プラン1

3 ARCHI Box

4 「ARCHI Box」に戻ります。

戻る

ホーム 視点を初期状態に戻します。

インフォメーション バージョン情報やヘルプを表示します。

「ieKuru」のその他の機能については、ヘルプを参照してください。

スナップショット 一覧から選択して、視点を切り替えます。

ウォークスルー ウォークスルーモードに切り替わります。

ピンチで拡大・縮小

ドラッグで回転

ウォークスルーモード

画面右下に表示されるコントローラを操作して、前後左右に移動できます。

スナップショット

初期視点(全表示)

外観 %1

内観 %1

鳥瞰

## モデルを仮想建築するには (iePon)

1 立体 (.pon) をタップ

2 プラン1

3 ARCHI Box

4 カメラを選択してモデルを確認

戻る

前の画面に戻ります。  
(ARCHI Box から開いた場合は、ARCHI Box の画面に戻ります)

仮想カメラ

模型ビュー

実物ビュー (距離 1 m)

実物ビュー (距離 5 m)

実物ビュー (距離 10 m)

遠視カメラ

外観

外観2

内観

### 補足 単独起動する場合

ARCHI Box と同じログイン情報を入力する必要があります。

1 ARCHI Box

2 iePon

3 ログイン ID@契約IDを入力

4 ログイン認証 認証に成功しました。 OK

5 ヘルプ

ヘルプやバージョン情報も確認できます。

「iePon」の機能については、ヘルプを参照してください。

6 福井市AB部 > 6月16日打合せ > プラン1.pon

7 ARCHI Box にアップされている ieKuru データが一覧表示

**模型のように建物を置いた様子を確認するには**

[固定カメラ] で「模型ビュー」を選択します。

敷地・外構などを印刷した紙の上に置くと、建物のイメージがよりリアルに確認できます。



iPadの向きを変えると、その方向に建物が回転します。



画面操作で建物が左右にだけ回転するようになります。微調整する場合に有効です。



**建築予定地に建物を建てたイメージを確認するには**

[固定カメラ] で「実物ビュー（距離 10m）」を選択して、敷地に iPad のカメラを向けます。

カメラから見える景色が背景となり、実際に敷地に建物を建てたイメージを確認できます。



**建築予定地で室内から外の様子を確認するには**

[連携カメラ] で室内のカメラを選択します。

カメラから見える景色が窓越しに見えるようになり、実際に室内から見た外の様子を確認できます。

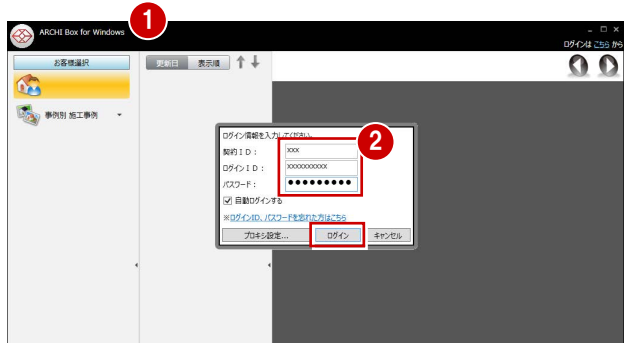




## 4-4 Windows 版アプリを使用するには

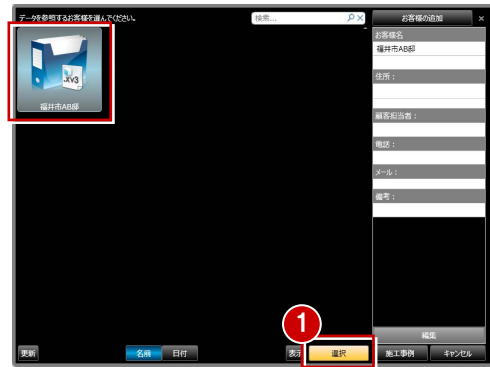
### ARCHI Box にログインする

- 1 「ARCHI Box for Windows」を起動します。
- 2 ログインIDとパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。

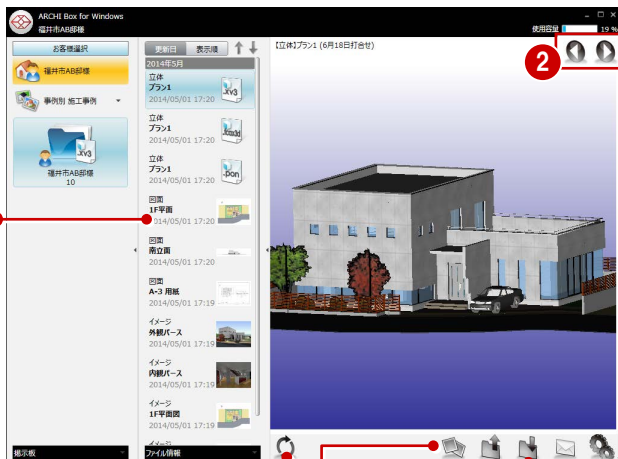


### パースや図面を確認する

- 1 参照するお客様が選択されていることを確認して [選択] をクリックします。
- 2 [次へ] [前へ] をクリックしてアップロードしたパースや図面を確認します。



**ファイル一覧**  
表示するデータを一覧から選択できます。



**更新**

GLOBE でアップロードファイルを追加変更した場合、内容を更新します。

ARCHI Box for Windows の詳しい操作解説は [ヘルプ] メニューより [操作マニュアル] をご覧ください。

**スライドショー**

アップロードしたファイルを自動で切り替えて表示します。

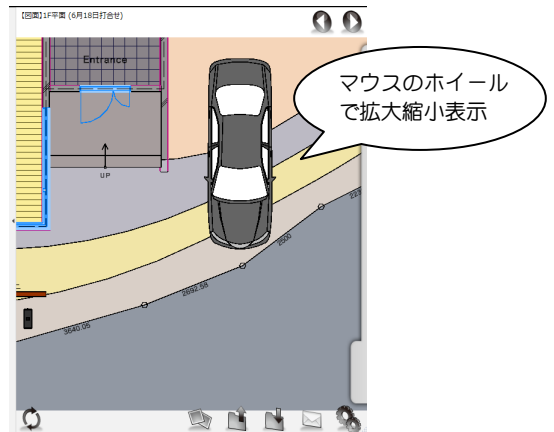
**ダウンロード**

ビューに表示されているファイルをダウンロードします。



- **カメラ視点切替**  
各階に配置されているカメラの視点に切り替えます。
- **ウォークスルー**  
ウォークスルーモードに切り替わります。

【FCWeb3D ファイル】



【FCWeb2D ファイル】

### 補足 ARCHI Box for Windows 付属のビューアについて

出力した FCWeb2D と FCWeb3D ファイルを ARCHI Box にアップロードする前にビューアで確認することができます。

